

17 フロア機能の概要・利用時間・利用のルール

今後事業を進める中で変更する場合があります。

(1) 1階 「土と根」 交流のフロア



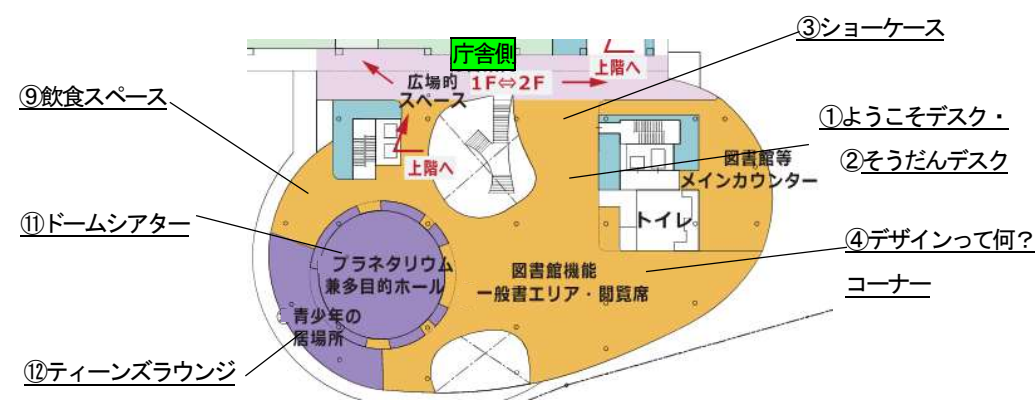
種を育む土の中、未来を創る芽吹く場

館の入口として、未来へ向かう最初の一步を踏み出すフロア。
土の中をイメージした落ち着いた空間が、穏やかに来館者を迎えます。カフェでは香ばしいコーヒーの香りが漂い、市民ラウンジでは多様な人々が交流します。読書に没頭する人、語り合う人、それぞれの「種」が静かに芽吹く準備をしています。
庁舎側とシームレスにつながる、日常の延長線上にあるこの場所で、知と交流の種が自然と蒔かれていきます。

Ⓟ→平日、Ⓣ→土日祝、
「—」→開館時間

機能	概要	利用時間	利用のルール
①総合案内	・窓口案内、主要なサービス機能の案内、車椅子、ベビーカーの貸出手配 ・案内用タブレットや図書の自動貸出機も設置	Ⓟのみ 8：30～17：15	
②インデックスコーナー	・日常やライフイベントに関するワードに合わせ、本やチラシ、模型、商品などの資料を展示し、目的の情報にアクセスすることができるコーナー ・利用者用タブレットを設置し、利用者はタブレット又は自身のスマートフォンを用い、キーワードごとの2次元コード等から情報にアクセス可能	—	
③市民ラウンジ イベント広場 【座席数 28 席程度】	・市役所開庁時は、目的に合わせて自由に過ごすことができる場所として開放。大型ビジョンを設置し、(仮称) 未来・図書館の案内を始め、市政情報や施策のPR、郷土博物館のイベント情報などを発信 ・市役所閉庁時は、トークイベントやミニコンサートなどの各種イベントを開催するほか、市民交流の場として活用 ・災害時は、一時避難所として活用	—	・原則、市が主催又は共催する事業での利用とし、貸出しは行いません。
④ギャラリー 【座席数 36 席程度】	・市役所各課や他の公共施設との連携、関連機関・企業・大学・市民団体などと協働した企画展示やワークショップを行うことができるスペース	—	
⑤カフェ 【座席数 50 席程度】	・民間事業者による軽食もとれるカフェスペース ・建物南西部の屋外広場も客席として利用	運営事業者決定後に決定	
⑥屋外広場	・すり鉢状の観覧席を設置したイベント広場 ・建物南西部を開口することにより屋内と一体利用も可能	—	
⑦予約本受取コーナー	・予約棚と自動貸出機を配置し、予約した図書等をセルフサービスで借りることができるコーナー	—	・CDや他館から借用した図書などは、対面での貸出とします。
⑧ブックポスト	・返却用ブックポストを建物南側に設置	24 時間 365 日対応	
⑨トイレ	・男性用トイレ、女性用トイレ、みんなのトイレ（バリアフリー対応のトイレ）、だれでもトイレ（性別にかかわらず利用できる個室トイレ）を配置	—	
⑩授乳室	・男性・女性双方の利用に配慮した授乳室を配置	—	

(2) 2階 「空と枝」 広がるフロア



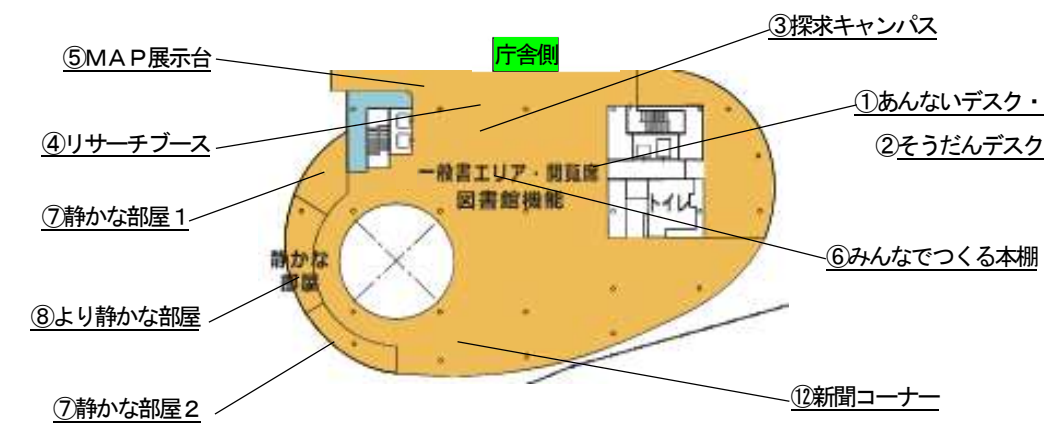
芽が出て空へ伸び、広がる学びと創造の場

自然光が差し込む吹き抜けの大空間が、成長する若木のような希望を感じさせるフロア。
1階からの階段を上がると開放的な空間が広がり、象徴的なドームシアターが、物語や映像の世界へと誘います。ティーンズラウンジは、若い世代が自由に集い、語り合う場として活気に満ちています。図書エリアには、アート、デザイン、スポーツ、雑誌、文庫が並び、気軽に本に触れられる工夫がされています。
市民協働推進課や青少年課ともつながり、ここから未来へ向かう芽が育まれます。

機能	概要	利用時間	利用のルール
①ようこそデスク	・利用案内、利用者登録、ドームシアター年間パスポートの販売、CDや他館から借用した図書の貸出・返却等 ・車椅子利用者にも配慮し、一部ローカウンターを採用	—	
②そうだんデスク	・プライバシーに配慮したレファレンス用の個別ブース	—	
③ショーケース	・外部から見ることも、中に入ることも可能な100冊程度の本を展示 ・(仮称) 未来・図書館の企画展示だけでなく、あつぎ郷土博物館や庁内各課、市内企業、市内大学等と連携した企画展示を実施	—	
④デザインって何? コーナー	・「デザイン」とは、目に見えるものだけではなく、行動変容を起こしていく仕組みや考え方のことです。「人生を豊かにするためのデザインとは何か」をテーマとした企画展示を継続的に実施	—	
⑤閲覧席 【座席数：106席程度】	・建物南側に面したカウンター席、ソファ席、テーブル席等を設置 ・カウンター席にはパソコン等の電子機器を利用するためのコンセントを設置	—	・閲覧席のうちカウンター席の利用に当たっては、座席予約システムによる予約手続を必要とします。 ・その他の席は、自由に利用できるものとします。 ・カウンター席にあるコンセントは、パソコンやタブレットなどの電子機器で利用できるものとします。
⑥動く棚	・可動式の展示台を使用したミニ企画展示コーナー	—	
⑦あつめきコーナー 【座席数：24席程度】	・6～8人掛けビッグテーブルを設置 ・オープンでありながら簡単な講座等の開催も可能	—	
⑧検索・予約コーナー	・蔵書検索機を設置し、本の検索や予約ができるコーナー	—	
⑨飲食スペース 【座席数：40席程度】	・持参した弁当やカフェで提供する軽食を食べられる場所 ・カウンター席とテーブル席を設置	—	
⑩ごみリサイクル コーナー	・飲食コーナーで出た「資源化できるゴミ」を収集する場所 ・ごみリサイクルについて考える展示も実施	—	

機能	概要	利用時間	利用のルール
⑪ドームシアター 【客席数：96 席（車椅子用スペース含む）】	・プラネタリウム用の恒星投影機やプロジェクターを備え、宇宙やマイクロの世界など、普段の生活では見られない様々な世界をバーチャルで体験できる直径 15m のドーム型シアター ・簡易ステージも備え、全天周映像プログラムを活用したイベント等多目的な利用も可能	㊦9：00～21：00 ㊫9：00～19：00	・番組投影の観覧は有料とします。また、大人向けプログラム（コンサート等）については、出演料等の経費を反映した料金を設定します。 ・団体利用や障がい者等の減免については、現子ども科学館コスモシアターと同様の規定を引き続き適用します。 ・番組投影がない時間帯は、個人又は団体による貸切利用ができます。貸切利用は、有料とし、料金の設定に当たっては、一般的な貸館施設と異なり、映像装置や音響機器の操作にはスタッフが必要であることから、ホール使用料にスタッフ技術料、機材使用料を加えた料金を設定します。また、入場料の徴収等の営利行為を目的とする貸切利用については、利用料を加算するものとします。 ・番組投影等がない時間帯は、一般開放（出入り自由）し、市政情報や施策の P R などの情報発信を行います。
⑫ティーンズラウンジ 【座席数：40 席程度】	・10 代を中心とした青少年同士が気軽に集い、交流し、様々な活動に活用できるスペース	—	・中高生世代から求められている居場所を確保するため、中学 1 年生～19 歳（満 20 歳になる年の年度末まで）までの青少年の専用利用とします。 ・青少年が気軽に立ち寄ることができる場とするため、利用時間中の出入りを自由、飲食等についても可能とし、利用料は無料とします。
⑬トイレ	・男性用トイレ、女性用トイレ、みんなのトイレを配置	—	
⑭ベビーカー置場	・図書エリアやドームシアター利用者用のベビーカー置場	—	
⑮事務室	・職員の執務用スペース	—	・関係者以外は立入禁止

(3) 4階 「森と幹」本のフロア



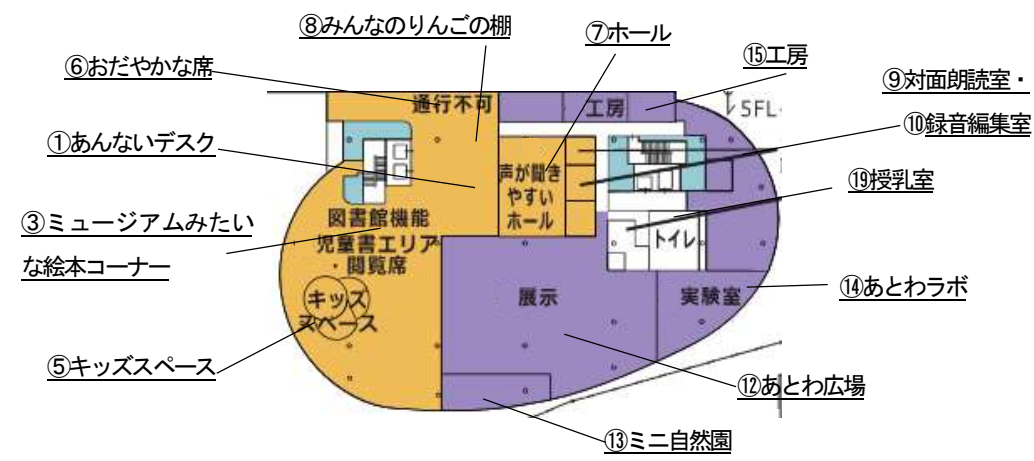
森のように深く知を蓄える探求の場・静寂の空間

木々が生き茂る森のように、幅広い分野の資料を集めたフロア。
幹のように整然と並ぶ書架は、森の奥へと踏み込むような探究心をかきたてます。まるで森の中にいるかのように、ゆっくりと読書に没頭できる「静かな部屋」。知を深め、新たな発見へとつながる対話が生まれる「探求キャンパス」。「みんなでつくる本棚」では、人と本をつなげ、感動を共有する喜びが生まれます。
教育委員会との連携により、学びの枝をより広く張り巡らせます。静かに本を読む人、思索にふける人、議論を交わす人、それぞれが「知の森」を豊かにしていきます。

機能	概要	利用時間	利用のルール
①あんないデスク	・レファレンス、資料の複写、商用データベースの対応 ・車椅子利用者にも配慮し、一部ローカウンターを採用	—	
②そうだんデスク	・プライバシーに配慮したレファレンス用の個別ブースを設置	—	
③探求キャンパス 【座席数：10 席】	・「地球環境問題」をテーマに、空間を囲むように様々な分類の図書を横断的に配架 ・何かを調べたい人が、主体的・対話的に調べ方を学び続ける「探求の旅」を促す場	—	
④リサーチブース 【座席数：2 席】	・調査研究を支援するツールである、商用データベースを無料で利用可 ・判例、法令、官報などの法情報、過去の新聞記事や雑誌記事、論文などの検索や、国立国会図書館「図書館向けデジタル化資料送信サービス」を利用可	—	・リサーチブース席は、商用データベースを閲覧する方のみが利用することができます。 ・利用に当たっては、データベース端末利用申込みを必要とします。
⑤MAP展示コーナー	・紙地図だけでなく、テーマに応じ触知図、立体模型、プロジェクションマップ等を活用し、テーマに関する情報を「地図・マップ」に重ね合わせて表示する展示コーナー	—	
⑥みんなでつくる本棚 【座席数：15 席程度】	・利用者自身がお気に入りの本や人にお勧めしたい本を配架できるコーナー。利用者同士での本の共有を通じ、新たな興味や知識の共有につなげていく場	—	
⑦静かな部屋（2 部屋） 【座席数：40 席程度】	・静かに読書や自習をするための部屋	—	・静かな部屋、より静かな部屋の利用に当たっては、座席予約システムによる手続を必要とします。 ・この部屋では、読書や調べものなどに集中することができるよう、キータッチ音が出ないようにしてのパソコンやタブレット等の使用は可能としますが、会話と電卓の使用は不可とします。
⑧より静かな部屋 【座席数：30 席程度】	・読書や資料の閲覧に集中するための部屋	—	
⑨閲覧席 【座席数：107 席】	・窓際のカウンター席、ソファ席、吹き抜け回りのリーディングラウンジなど、落ち着いた雰囲気の閲覧席を設置 ・カウンター席にはパソコン等の電子機器を利用するためのコンセントを設置	—	・閲覧席のうちカウンター席の利用に当たっては、座席予約システムによる予約手続を必要とします。 ・その他の席は、自由に利用できるものとします。 ・カウンター席にあるコンセントは、パソコンやタブレットなどの電子機器で利用できるものとします。
⑩地域資料コーナー	・厚木市及び神奈川県他の資料を 6000 冊程度配架 ・観光、グルメマップ、温泉、まちの変遷など企画展示も実施	—	

機能	概要	利用時間	利用のルール
⑪和田傳コーナー	・ 明治 33 年厚木生まれの農民文学の第一人者で、厚木市初の名誉市民である和田傳を紹介するコーナー ・ 作品の舞台となった厚木の農村風景の展示等も実施	—	
⑫新聞コーナー	・ 新聞 40 紙程度を配架 ・ 新聞縮刷版は、読売、朝日、毎日、神奈川新聞の各紙 1 年分を配架	—	
⑬動く棚	・ 可動式の展示台を使用したミニ企画展示コーナー	—	
⑭資料複写サービスコーナー	・ 有料コピー機を設置	—	・ 図書館の所蔵資料を個人が研究に使用する場合に限り、著作権法により、館内での複写が認められています。
⑮携帯電話ブース	・ 携帯電話の通話利用のための防音ブースを設置	—	
⑯作業室	・ 図書館職員が、資料の受入・修繕・装備、他館への移送準備等の作業を行うためのスペース	—	・ 関係者以外は立入禁止

(4) 5階 「風と葉っぱ」わくわくのフロア



風が吹き抜け、自由に巡る発想と創造が舞う場

風が吹き抜け、軽やかに遊ぶ葉のように、自由な発想を広げるフロア。
図書エリアと展示エリアの境界はなく、子どもも大人も好奇心のままに自由に歩き回りながら、新たな世界と出会えます。
絵本の世界に飛び込んだり、実験や工作を楽しんだり、展示に触れ、発見することで、知識が循環していきます。ここでは、
知の探求だけでなく、新たなアイデアや創造の風が吹き抜けていきます。

機能	概要	利用時間	利用のルール
①あんないデスク	・児童書、子育て関連の本・資料に関するレファレンス、実験・工作教室の案内、読書バリアフリーサービスの対応 ・児童や車椅子の方にも配慮しローカウンターを採用 ・プライバシーに配慮した個別相談ブースを設置	—	
②縁日コーナー	・縁日のような遊びを通じて、偶発的な本との出会いを創出するコーナー	—	
③ミュージアムみたいな絵本コーナー 【座席数：8席】	・絵本の表紙を見せる並べ方を多用することによって、背表紙の字が読めない小さな子どもたちも直感的に本を手にとることができるコーナー ・大人にとっても絵本独特の世界を楽しめるミュージアムのような空間	—	
④児童書エリア 【座席数：55席】	・児童書（21,000冊程度）、子育て関連本（3,000冊程度）を配架 ・特定のテーマで書かれた本や推薦図書などを取り揃えたコーナーも設置 ・ミニ自然園や実験・工作教室と連動した資料を展示するコーナー（1,000冊程度）やお勧めの本を利用者同士で共有できるコーナーも設置	—	
⑤キッズスペース	・靴を脱いでリラックスしながら親子で本を楽しむためのスペース ・絵本や紙芝居の読み聞かせ（おはなし会）や乳幼児向けイベントも実施 ・近くには保護者向けの子育て関連の雑誌を配架	—	
⑥おだやかな席 【座席数：10席程度】	・児童向けの小説などの本（3,000冊程度）を配架 ・おだやかに読書ができるスペース	—	
⑦ホール 【定員：机席で50席、椅子席で100席程度】	・読み手がマイクを使わなくても、声が明瞭に聞こえ、言葉の響きの美しさがきちんと伝わる音響特性、防音性能をもった空間 ・朗読会や読み聞かせ（おはなし会）での使用を主目的としますが、講演、会議、映画上映会、ミニコンサート、対談、座談会や、その収録又はインターネット中継にも対応	—	・原則、市が主催する講座や研修等で利用します。 ・利用していない時間帯については、グループ学習席として利用できます。 ・利用に当たっては、グループ学習席利用申込みを必要とします。
⑧みんなのりんごの棚	・読むことが難しい方にも読みやすいように、写真や絵、短い言葉で構成されたLLブック、布絵本、点字本、録音図書、文字・画像・音声を同時に再生できる電子書籍（マルチメディアデ이지ー）等の読書バリアフリーに対応した資料を配架	—	

機能	概要	利用時間	利用のルール
⑨対面朗読室	- 本を読むことが難しい利用者が、音訳ボランティアと対面で、希望する資料を直接読んでもらうための部屋 - プレクストーク（視覚障がい者向けの音声読み上げ機能付き図書再生端末）やマルチメディアデイジー（文字・画像・音声を同時に再生できる電子書籍）を利用して、自ら読書することができます。	※対面朗読サービスは ①②③9：30～17：00	- 読書バリアフリーサービスの利用登録をしている方のみが利用することができます。 - 利用に当たっては、事前申込制とします。
⑩録音編集室	録音編集機材を設置し、職員やボランティアスタッフが、音訳版図書館だよりの作成やホールで行う講演の録音を行う部屋	—	関係者以外は立入禁止
⑪資料庫（閉架書庫）	- 利用者が自由に書架にアクセスできない閉架書庫 - 団体貸出等の資料（5,000冊程度）を配架	—	団体貸出登録をした団体の関係者のみが利用できます。
⑫あとわ広場	- 感性や記憶を刺激するような各種展示装置を設置し、自分の中の「あ！」という気付き・驚きから、新たな興味関心「わくわく」に出会える場所 - 主に次の5つのコンテンツで構成 ①あとわコースター 気付き（あ！）から（to）わくわく（わ）へのステップを可視化し、「あ to わ（あとわ）」のコンセプトを楽しみながら感じる事ができる象徴展示的なボールコースター ②日常の中の「あとわ」 日常の中に潜む様々な「わくわく」（＝誰かが楽しんでいるモノやコト）を追体験することができる展示や、厚木ならではのモノやコト（自然、歴史・文化、産業等）の展示を通じ、自分の中の新たな興味関心を見つけるコーナー。ブースの一角に関連する図書も設置することで展示内容を補完します。 ③記憶の中の「あとわ」 1960年代頃から現代までの流行したアイテムを並べ、自分の過去の記憶（印象的な思い出や昔の夢等）を呼び起こすコーナー。子どもにとってもレトロの魅力から自分の興味に気付くことができるコーナー ④わたしの「あとわ」 五感（視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚）を使って楽しむ様々なゲーム感覚の体験装置を設置し、自分の感性や反応を試すことができるコーナー。スコアは記録され、他人の結果と比較することも可能。また、視覚以外の様々な感覚やコミュニケーションを楽しめる暗闇ルーム（ダイアログ・イン・ザ・ダーク）も設置します。 ⑤あとわナビ 展示での体験結果を基に、おすすめの本や講座、活動団体の情報を提供するシステムを導入し、意図しなかったような本や活動との偶発的な出会いにつなげます。	①②③8：30～17：00	- 利用時間中の出入りは自由とし、入場料は無料とします。 - 安全管理上、小学3年生以下の利用に当たっては、保護者同伴を原則とします。
⑬ミニ自然園	- 様々な植物や昆虫、水辺の生物などの飼育や観察を通じ、自然に触れてみる事ができる部屋 - ここで育てた植物を使ったワークショップ等も開催		- 利用時間中の出入りは自由とし、入場料は無料とします。 - 安全管理上、小学3年生以下の利用に当たっては、保護者同伴を原則とします。

機能	概要	利用時間	利用のルール
⑭あとわラボ 【定員：45 人程度】	- 様々な実験器具等を備え、火気や水が使用できる特別な仕様の部屋 - 全ての机、椅子を可動式にし、自由にレイアウト変更が可能とすることで、実験イベントだけを行うのではなく、柔軟な使い分けができる空間	—	- 市が主催する講座やワークショップ等で利用します。 - 利用していない時間帯については、一般開放（小学校3年生以下は保護者同伴）し、器具の使用も可能としますが、顕微鏡等の高額器具の使用に当たっては、使用申請を必要とします。 - 利用料は無料とし、手軽に楽しめる工作キットの販売も行います。
⑮工房 【定員：アナログ工房5人、デジタル工房8人程度】	- 様々な機材を使用して、ものづくりができる2つの部屋 ①アナログ工房 電動丸鋸盤やボール盤等アナログ工作機器等を揃えた部屋 ②デジタル工房 3Dプリンター等パソコンで操作するデジタル工作機器を揃えた部屋	㊦9：00～21：00 ㊫9：00～19：00	- 市が主催する工作教室等で利用します。 - 利用していない時間帯については、事前に操作研修を受講し利用登録された方が利用することができます。 - 利用に当たっては、座席予約システムによる予約手続を必要とし、利用料は有料とします。 - 利用登録には、次のとおり年齢制限及び利用制限を設定します。 ①アナログ工房・・・電動丸鋸盤等操作に細心の注意を払う必要のある機器を扱うことから、利用登録できる年齢は16歳以上とし、機器の利用に当たっては、スタッフの立ち合いを原則とします。 ②デジタル工房・・・利用登録できるのは中学生以上とします。
⑯準備室	・職員が各種講座やプラネタリウム投影等の準備を行う部屋	—	関係者以外は立入禁止
⑰スタッフルーム	・職員やボランティアスタッフの打合せを行う部屋	—	関係者以外は立入禁止
⑱トイレ	- 男性用トイレ、女性用トイレ、みんなのトイレを設置 - 男性用と女性用のトイレ内には、それぞれ親子トイレ1室を設置	—	
⑲授乳室	・個室型の授乳スペース2席、オープンな授乳スペース1席、調乳スペース、おむつ替え台を2台設置	—	
⑳ベビーカー置き場	・エレベーターホール付近にベビーカー置場を配置	—	

(5) 7階

機能	概要	利用時間	利用のルール
閉架書庫 BM（移動図書館車）書庫	- 非公開の書庫で、利用者の請求に応じてスタッフが図書資料を用意する「閉架書庫」と職員の作業スペースを配置したバックヤードゾーン - 閉架書庫は電動集密書架及び固定書架を設置し、約40万冊を収納 - BM用書庫は約1万冊の資料を収納 - 業務用のエレベーターに近接させることで、地下から7階までスムーズな移動動線を確認し、各階のメインカウンターへの迅速な資料搬送が可能となります。	—	

(6) 9階（屋上）

機能	概要	利用時間	利用のルール
天体観望ルーム 【定員：10 人程度】	30 cmクラスのカセグレン反射望遠鏡を備えた部屋 - 太陽望遠鏡も設置し、惑星や星雲の観望に対応	貸切利用 ㊦のみ9：00～21：00	- 市が主催する星や星空、夜空などを見て楽しむイベント等で利用します。 - 利用していない時間帯は、個人又は10人以下の団体による貸切利用ができます。 - 貸切利用については、事前予約制とし、利用料については有料とします。

(7) 館内全般

行為	指定するエリア
会話	・ 4階の静かな部屋、より静かな部屋を除く全てのエリアで可とします。
飲食	・ 1階市民ラウンジ、2階飲食スペース、ティーンズラウンジで可とします。また、閲覧席でもフタ付きの飲み物（ペットボトル・水筒等含む）であれば、飲みながらの読書、自習も可とします。 ・ ゴミは、持ち帰りを原則とし、資源化が可能な廃棄物については、2階のごみリサイクルコーナーで回収します。
パソコン、タブレット、携帯電話、電卓	・ パソコンは、4階のより静かな部屋を除く全てのエリアで使用を可とします。ただし、音声が出るコンテンツはイヤフォン等の使用を必須とします。 ・ タブレットは、全てのエリアで使用を可とします。ただし、音声が出るコンテンツはイヤフォン等の使用を必須とします。 ・ 携帯電話の通話は、1階は全てのエリア、2階・5階はエレベーターホール、4階は携帯電話ブースでの使用を可とします。 ・ 電卓は、4階フロア以外は使用を可とします。